＜高森台中学校区＞
学校統合に向けた第３回意見交換会　次第

日　時　令和８年４月 25 日（土）
　　午後２時から午後４時まで

場　所　東部市民センター 多目的室

1　開会

2　学校統合に向けた検討について説明・意見交換

3　参加者どうしによる意見交換

4　その他

5　閉会

市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

Ⅰ　小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57%減少の 13,312 人に、中学生の人数は、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59%減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

1　学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	（中学校のみの区分） 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1)　小学校における学校規模の区分

学級数	～6	7～11	12～24	25～30	31～
区　分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2)　中学校における学校規模の区分

学級数	～3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区　分	過小規模	小規模	やや小規模	適正規模	大規模	過大規模

2　学級数の基準

学級数については、現行の１学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学　年	人 数
小学１年生～中学１年生	35 人
中学２年生及び中学３年生	40 人

※　中学３年生は令和９年度以降について、１学級あたり 35 人で推計しています。

３　学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22 からの抜粋

⑴　規模が小さい学校のメリット

①　一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。

②　意見や感想を発表できる機会が多くなる。

③　様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。

④　運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。

⑤　教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。

⑥　異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。

⑦　地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。

⑧　児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

⑵　規模が小さい学校のデメリット

ア　学級数が少ないことによる課題

①　クラス替えが全部又は一部の学年でできない。

②　クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。

③　教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。

④　クラブ活動や部活動の種類が限定される。

⑤　運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。

⑥　上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。

⑦　体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。

⑧　班活動やグループ分けに制約が生じる。

⑨　協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。

⑩　教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。

⑪　生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。

⑫　児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。

⑬　教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ　教職員数が少なくなることによる課題

①　経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。

②　教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。

③　児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。

④　ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。

⑤　教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。

⑥　学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。

⑦　平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。

⑧　教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会などが成立しない。）。

⑨　学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。

⑩　免許外指導の教科が生まれる可能性がある。

⑪　クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ　学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

①　集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい。

②　児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。

③　協働的な学びの実現が困難となる。

④　教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。

⑤　切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。

⑥　教員への依存心が強まる可能性がある。

⑦　進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。

⑧　多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。

⑨　多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

⑶　クラス替えが可能になることによるメリット

①　児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。

②　児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。

③　新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。

④　クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。

⑤　学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。

⑥　学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。

⑦　指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

４　本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、１学年に２学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模（中学校のみ）	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

５　最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

⑴　坂下中学校区
　坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校

⑵　藤山台中学校区
　藤山台中学校、藤山台小学校

⑶　高森台中学校区
　高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校

⑷　石尾台中学校区
　石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校

⑸　岩成台中学校区
　岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

６　高森台中学校区のこれまでの取組

⑴　令和７年２月
　「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定

⑵　令和７年４月
　小中学校のＰＴＡ役員への説明、意見交換

⑶　令和７年５月～６月
　保護者、子どもアンケートの実施

⑷　令和７年６月～７月
　地域アンケートの実施

⑸　令和７年９月～10 月
　第１回意見交換会の開催

⑹　令和７年 12 月
　第２回意見交換会の開催

Ⅱ　児童生徒数推計について

令和 22 年度では、高森台中学校はクラス替えのできない学年がある「小規模」であり、中学校区内の全ての小学校は全学年で学級数が１学級の「過小規模」であると推定されます。

⑴　高森台中学校　※R19 まで「やや小規模」で推移、R22 では「小規模」であると推定

学 年	R７（やや小）		R８（やや小）		R９（やや小）		R10（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	99	3	78	3	95	3	89	3
２ 年	92	3	98	3	77	3	94	3
３ 年	94	3	91	3	97	3	76	3
合 計	285	9	267	9	269	9	259	9

⑵　高森台小学校　※R13 まで「小規模」で推移、R22 では「過小規模」であると推定

学 年	R７（小）		R８（小）		R９（小）		R10（小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	34	1	32	1	32	1	36	2
２ 年	36	2	35	1	32	1	32	1
３ 年	41	2	37	2	36	2	32	1
４ 年	38	2	42	2	38	2	37	2
５ 年	39	2	39	2	43	2	39	2
６ 年	34	1	40	2	40	2	44	2
合 計	222	10	225	10	221	10	220	10

⑶　中央台小学校　※「過小規模」で推移

学 年	R７（過小）		R８（過小）		R９（過小）		R10（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	21	1	23	1	16	1	13	1
２ 年	27	1	21	1	23	1	16	1
３ 年	29	1	27	1	21	1	23	1
４ 年	22	1	29	1	27	1	21	1
５ 年	33	1	22	1	29	1	27	1
６ 年	21	1	33	1	22	1	29	1
合 計	153	6	155	6	138	6	129	6

⑷　東高森台小学校　※「過小規模」で推移

学 年	R７（過小）		R８（過小）		R９（過小）		R10（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	18	1	16	1	21	1	17	1
２ 年	22	1	18	1	16	1	20	1
３ 年	21	1	21	1	18	1	16	1
４ 年	23	1	20	1	20	1	18	1
５ 年	20	1	22	1	20	1	20	1
６ 年	18	1	20	1	21	1	20	1
合 計	122	6	117	6	116	6	111	6

※ R19 までは、R7 の０歳から５歳までの年齢別人口に基づき推計。
　R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11（やや小）		R12（やや小）		R13（やや小）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
94	3	86	3	74	3
88	3	93	3	85	3
93	3	87	3	92	3
275	9	266	9	251	9

R19（やや小）	
生徒数	学級数
47	2
54	2
47	2
148	6

R22（小）	
生徒数	学級数
38	2
35	1
36	2
109	5

R11（小）		R12（小）		R13（小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	40	2	32	1
37	2	27	1	41	2
32	1	38	2	27	1
32	1	32	1	39	2
38	2	32	1	32	1
40	2	39	2	32	1
206	9	208	9	203	8

R22（過小）	
児童数	学級数
16	1
16	1
19	1
17	1
15	1
13	1
96	6

R11（過小）		R12（過小）		R13（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
20	1	12	1	11	1
13	1	20	1	12	1
16	1	13	1	20	1
23	1	16	1	13	1
21	1	23	1	16	1
27	1	21	1	23	1
120	6	105	6	95	6

R22（過小）	
児童数	学級数
10	1
12	1
13	1
10	1
13	1
8	1
66	6

R11（過小）		R12（過小）		R13（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	19	1	16	1
17	1	12	1	19	1
20	1	17	1	12	1
16	1	20	1	17	1
18	1	16	1	20	1
20	1	18	1	16	1
103	6	102	6	100	6

R22（過小）	
児童数	学級数
9	1
10	1
10	1
11	1
8	1
7	1
55	6

【参考】高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校の合計

学 年	Ｒ７（適正）		Ｒ８（適正）		Ｒ９（適正）		Ｒ10（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	73	3	71	3	69	2	66	2
２ 年	85	3	74	3	71	3	68	2
３ 年	91	3	85	3	75	3	71	3
４ 年	83	3	91	3	85	3	76	3
５ 年	92	3	83	3	92	3	86	3
６ 年	73	3	93	3	83	3	93	3
合 計	497	18	497	18	475	17	460	16

R11（適正）		R12（適正）		R13（適正）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
59	2	71	3	59	2
67	2	59	2	72	3
68	2	68	2	59	2
71	3	68	2	69	2
77	3	71	3	68	2
87	3	78	3	71	3
429	15	415	15	398	14

R22（小）	
児童数	学級数
35	1
38	2
42	2
38	2
36	2
28	1
217	10

Ⅲ　アンケート結果について

保護者アンケート･･･【保護者】　　地域アンケート･･･【地域】
児童アンケート　･･･【小学生】　　生徒アンケート･･･【中学生】

1　高森台中学校区

・小学校回答者数･･･　802 人（保護者 397 人、児童（３～６年生）311 人、地域の方 94 人）
・中学校回答者数･･･　363 人（保護者 133 人、生徒 230 人）

Ｑ 小中学校ともに１学年に２学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

１学年に２学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約５割、地域の方で約７割、中学校の保護者で約５割となっています。

「ぜひ進めるべき」　又は「進める方がよい」　　と回答した方 ･･･ **賛成**
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方 ･･･ **反対**

①　小学校全体及び小学校別

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
全体	【保護者】	51.6%	32.0%	16.4%
	【地域】	73.4%	13.8%	12.8%
高森台小	【保護者】	55.7%	31.1%	13.2%
	【地域】	68.9%	20.7%	10.4%
中央台小	【保護者】	56.2%	33.9%	9.9%
	【地域】	75.7%	13.5%	10.8%
東高森台小	【保護者】	40.4%	31.2%	28.4%
	【地域】	75.0%	7.1%	17.9%

②　中学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
高森台中	【保護者】	54.9%	36.1%	9.0%

Ⅳ　意見交換会でのご質問・ご意見について

１　第１回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、高森台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、児童生徒数の推計についての質問が多くありました。また、学童や学校跡地についてなど、様々な質問がありました。

学校名 （開催日）	高森台中学校（10 月 22 日）	高森台小学校（10 月 14 日）
参加者数	12 人	19 人
質問・意見 （ ）は件数	・児童生徒数推計について (2) ・スケジュールについて (1) ・統合に関することについて (1) ・学校施設の改修について (1) ・体育館の空調について (1) ・意見交換会について (1) ・学校跡地について (1)	・通学バスについて (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・統合に関することについて (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・スケジュールについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・授業内容について (1) ・避難所について (1) ・学校行事について (1) ・いじめ等について (1) ・少人数学級について (1) ・学童について (1) ・体育館の空調について (1)

学校名 （開催日）	中央台小学校（10 月 23 日）	東高森台小学校（９月 25 日）
参加者数	24 人	21 人
質問・意見 （ ）は件数	・統合に関することについて (7) ・通学について (3) ・スケジュールについて (3) ・学童について (2) ・学校施設の改修について (1) ・少人数学級について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校跡地について (1) ・１学級の人数について (1) ・意見交換会について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・市の考え方について (1)	・統合に関することについて (3) ・児童生徒数推計について (3) ・アンケートについて (3) ・小規模校のメリット・デメリットについて (2) ・意見交換会について (2) ・通学について (2) ・その他の市の施策について (1) ・学童について (1) ・市の考え方について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・過小規模校のデメリットについて (1) ・過大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1)

２　第２回意見交換会

第１回意見交換会の意見などを踏まえ、高森台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、高森台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、通学に関して心配する声やニュータウン活性化の取組をあわせて行うことについての意見が多くありました。また、話し合いの機会を増やして慎重に検討を進めてほしいなど、今後の進め方についての意見や小規模校のメリットや１学級の人数についての質問に関連して、きめ細かな教育を望む意見もありました。

開催日	高森台中学校区（12 月７日）
参加者数	31 人
質問・意見 （ ）は件数	・通学について (3) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・教員の配置について (2) ・学校跡地について (2) ・子どもに対するケアについて (2) ・統合に関する市の考えについて (2) ・児童生徒数推計について (2) ・小規模校のメリットについて (1) ・１学級の人数について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・意見交換会について (1) ・地域への影響について (1) ・他自治体の事例について (1) ・大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・配布資料について (1) ・少人数学級について (1)

※　各意見交換会の会議録は、資料表紙のＱＲコードからご確認いただけます。

高森台中学校区意見交換会　質疑応答一覧

1　第１回意見交換会

⑴　高森台中学校

No.	質　問	回　答
1	小牧市でも統廃合の話があり、２年後の開校を目指しているとのことだった。春日井市の統廃合の話はどれくらい後の話なのか。	本市の取組としましては、第１段階として意見交換会を開催して、各地域の保護者や地域の方の意見をお聞きしているところで、統合などの具体的なスケジュールについては未定となっています。皆様との意見交換を重ねて、今後どのようなスケジュールになるか決めていきたいと考えています。
2	他の学校の意見交換会でよくある質問として、３つの学校が統合しても、小規模校の解消にならないという意見がある。高森台中学校で考えたときに、他の学校と合算するとどのような数字になるのか。	例えば、高森台中学校と石尾台中学校の合計の推計値を見てみますと、令和 13 年度では生徒数 519 人、各学年５学級の 15 クラスになります。令和 19 年度では、生徒数 273 人、各学年３学級の９学級、令和 22 年度では、生徒数 238 人、学級数は１年生で３学級ですが、２・３年生は２学級の７学級になると推計されます。
3	仮に統合するとなると、既存の中学校に統合するのか、新たな校舎をつくることになるのか。	仮に統合する場合は、学校施設の利用について様々な選択肢があります。既存の施設を使う場合は工事の期間が少ないため、開校までの時間が短くなりますが、新しい学校施設を作る場合等は、設計と工事の期間をあわせて５年くらいかかると考えています。皆さまにこれらの情報を提供させていただいて、学校施設の在り方を議論していきたいと考えています。なお、ニュータウン地区では、学校施設を建てるために土地を取得することは現実的ではなく、既存の学校施設の土地を使うことになると考えます。
4	統合については、建物の年数、施設の老朽化についても考慮する必要がある。既存の施設をそのまま使う場合は、トイレの改修、空調機の設置についてもしっかり整備するのか。	具体的な取組は決まっていませんが、各中学校で築年数が異なるため、状況に応じて整備する必要はあると考えます。体育館の空調機整備は現在進めているところで、トイレについては老朽化が進んでいるため整備する必要があると考えています。
5	空調の話について、小学校にしても中学校にしても災害時は体育館が避難所になるので、空調があることは大事になる。今後、夏がどれだけ暑くなるかはわからないが、空調設備は大事だと思う。	体育館の空調については、中学校から順次整備し、小学校についても早い段階で整備を進めることとしています。学校の統合等の取組に関わらず、進めていくこととしています。
6	今回の取組について、地域の人たちが、市にお任せではなくて、自分たちのこととして意識することが大事だと思う。そのためにも、意見交換会に多くの方が参加して意見交換を積極的に行う必要があると思うので、保護者や高齢者が参加しやすい時間帯で意見交換会を開催することが必要だと思う。	意見交換会にたくさんの方に参加していただいて、様々な立場から意見をいただきたいと考えています。今回は平日の夜間の時間帯で開催しましたが、今後、意見交換会を開催する場合は、土曜日、日曜日の日中の時間に開催するなど、皆様が参加しやすい時間帯を設定したいと考えています。

No.	質　問	回　答
7	高森台地区だと高森台テラスが整備され、小さい子どもが増えて、にぎやかに感じる。また、今後も整備が進んでいくと思うが、推計値はどうなるか。	高森台地区では、高森台テラスの入居が始まり、未就学児の子どもがいる世帯も増えています。高森台小学校の令和 13 年の児童数推計にはその社会増も加味しています。今後も再整備が進み、公表されれば推計値に入ってくるものと考えています。
8	仮に統合する場合には、学校跡地の利活用についても合わせて検討した方が、防犯などのまちのポテンシャルにも良い影響があると思う。	跡地については大事な問題だと考えています。教育委員会としては、子どものための教育環境の整備を第一に考えることとし、合わせて跡地についても検討できる体制をとっていきたいと考えています。

⑵　高森台小学校

No.	質　問	回　答
1	どの小学校、中学校を起点として、統合していくのか。	学校の適正な規模等の取組については、統合ありきではありません。統合も適正規模を進める一つの手法となりますが、今回の意見交換会の趣旨は、統合を含めた学校の適正な規模等の取組について、皆さまがどう考えているか、ご意見をうかがうものです。
2	統合を前提としていないとのことだが、具体的な検討に入るのはいつからか、目安となるスケジュールを知りたい。	統合するかどうかは未定のため、具体的なスケジュールをお示しすることは難しいです。市としては、子どもの数がさらに減っていく推計値がでている中で、スピード感をもって取り組む必要があると考えています。市と皆さまとの間である程度合意形成が図られた後に、できるだけ速やかに実施していきたいと考えています。
3	最近、高森台テラスなど新しい家が建っている。今後も団地の再開発がされて新しい家が建つのであれば人口は増えると思うが、推計値にその数字は入っているのか。	令和 13 年度までの推計値については、現在の０～５歳の高森台小学校区に住んでいる未就学児の人口に社会増を加味して推計しています。令和 22 年度の推計値については、まだ生まれていない子たちを想定して、人口の伸び率等を踏まえて推計しています。今後も団地の再生は続くかと思いますが、公表されていない内容は社会増に加味されていません。
4	適正な規模や配置を進める手法で統合以外では何があるのか。	統合以外の手法としては通学区域の変更があります。通学区域の変更によって、子どもの数を学校間で調整することができると考えます。ただし、大規模な学校と小規模な学校であれば児童数の平準化ができると考えますが、ニュータウン地区については小規模な学校が多いため、手法としては現実的に困難です。
5	バス利用の検討について、例えば名鉄バスのルートを変えるのか、スクールバスをだすなど、どのように考えているのか。	バスの利用については、今後導入するかどうかの検討をしていくこととなります。他市の事例では、既存のバス路線を使う場合やスクールバスを活用する事例があります。ニュータウン地区の状況に合わせた検討が必要になると考えています。
6	スクールバスを利用することで、通学で歩く距離が短くなってしまう。今の子どもは運動不足でもあるので、バス停の位置を考える必要があると思う。	バスの導入は未定ですが、導入する場合、バス停の位置も検討が必要になります。学校まで歩くということも、子どもの成長、健康づくりには大切なことだと思っており、短い距離でのバスの利用は難しいと考えています。市では通学距離の基準を示していますので、それを踏まえて、バス停の位置や運行について検討していきたいと考えています。
7	統合する場合、学校のプールの授業はどこで行うのか。	プールの授業につきましては現在、小学校は民間に委託して実施していますので、仮に統合することになっても、民間のプールを継続して利用することになると思います。中学校のプールの授業は各学校で実施しているため、中学校については、学校のプールを使用して授業を行うことになるのではないかと考えています。

No.	質　問	回　答
8	バスを利用することで、利用者に経済的な負担が発生すると思うので、市から補助を出すなど無償で利用できる制度があると保護者は安心する。	バスの導入に合わせまして、利用者負担についても検討していきたいと考えています。
9	高森台中学校はＩＣＴのモデル校となっていると聞いた。統合の影響で特色ある授業内容がどうなるかわからない。今後も継続して取り組んでほしい。魅力的なまちづくりについて、教育に力を入れて取り組んでもらえたら良いと思う。	仮に統合で新しい学校をつくることになるとすれば、学校施設の充実や特色ある教育内容を取り入れることで、魅力ある学校づくりを進めることができます。他の地域の方が通いたくなるような学校をつくるため、保護者や地域の皆さまとも協議を進めていきたいと考えています。 まちづくりの視点での地域の活性化については、市ニュータウン創生課が様々な施策を実施しています。教育委員会としては、子どもの教育環境の向上が地域の活性化につながればと考えています。
10	小学校は避難所になっているが、統合の影響でどうなるのか。	学校は避難所や選挙の際の投票所になっているなど、地域に密着した拠点施設だと認識しています。統合の影響で近くの避難所がなくなってしまっては、地域住民の安全安心な生活に影響が出てしまうため、不便になることがないような手法を検討していきたいと思います。
11	今後も日本全体で子どもの数が減っていくと思うが、まちづくりの視点で、魅力ある学校づくりと地域づくりを進めることができれば、対応策になると考える。	全国的な人口減少や子どもの数が減っていく中で、新しい学校の魅力づくりを検討することは、他の地域からの人口流入の可能性もあり、地域の活性化につながるものと考えています。
12	他の地域では小中一貫校を設置しているところもあり、引っ越ししてまで通わせたい学校もあると聞いている。魅力ある学校づくりを進めてもらいたい。	小中一貫校の設置は魅力ある学校づくりの一つの手法だと考えています。瀬戸市の統合により設置された小中一貫校の例では、充実した設備や学校の教育理念に賛同された方が他の地域から引っ越ししてきて、当初予定していた子どもの数を上回っていると聞いています。統合する場合には、小中一貫校の設置についても、保護者や地域の方と協議したいと考えています。
13	高森台小学校はウォークラリーなど、自然と触れ合う行事がある。そういった学校行事を大切にしてほしい。	仮に統合する場合、各学校の行事をどうするか検討する必要があります。新しい学校づくりについては、教職員をはじめとして、保護者や地域の皆さまの意見も踏まえて協議していくことになると考えています。
14	過去の藤山台小学校の統合について、どのような意見がでているのか。	統合して良かった点は、新しい施設や校舎で充実した設備で過ごすことができること、新しい学校ができて児童の数も増えたことで、多くの人と関わることができコミュニケーションをとることができたことなどを聞いています。 課題としましては、校区が広がって通学距離が長くなってしまった児童がいる、藤山台小学校は２段階の統合だったため１度の統合の方が良かった、また、早めの情報発信を望む声もありました。

No.	質　問	回　答
15	いじめ、非行、不審者に対する考えを聞きたい。	いじめの問題については、１学年に１クラスしかない場合、いじめなどの人間関係のトラブルがあった場合、クラス替えなどの対応をとることができないため、市では複数の学級が必要と考えています。また、子どもの数が多い方が人間関係を再構築しやすいこともあると考えています。 非行や不審者については、学校だけではなかなか対応できないこともあるので、地域、警察の方とも協力して解決していく必要があると考えています。
16	少人数クラスにして、きめ細かな教育をすることの考えはあるか。	現在、市では県の基準により、小学校と中学１年生は 35 人学級となっています。小規模校であっても、１学年の児童数が 35 人であれば１クラス、36 人であれば２クラスになります。実際に少人数クラスは、児童一人ひとりと向き合う時間が増え、行き届いた教育を実施することができると思います。しかし、１学年１クラスで各学年１人の教員数では、教員数が少ないと考えます。年齢、性別、経験、考え方、様々な教員による指導の方が子どもたちも成長します。ある程度の学級数、教員数がいた方が教育の質は高まると考えます。
17	過去の藤山台小統合のスケジュールは、開校までにどれくらい時間がかかったのか。	平成 22 年４月に藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成 24 年２月に藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第１次小学校統合計画が策定され、平成 25 年２月に第２次小学校統合計画が策定されました。平成 25 年４月に藤山台小学校と藤山台東小学校が統合し、28 年４月には、西藤山台小学校も統合し新しい藤山台小学校が開校しました。６年から７年かけて開校しています。 一般的には、設計と工事の期間を合わせ５年程度が必要となります。仮に既存の学校施設を使うのであれば、期間は短くなると考えます。どういった学校施設を使用するかは、保護者、地域の方や子どもたちの考えを聞きながら協議していきたいと考えています。
18	学童について、入れない地域もあると聞いている。統合が進むのであれば、保護者の方には早めに情報提供してほしい。	学童（子どもの家）については、働いている保護者の方、子どもにとって、放課後の安全安心な居場所として大切な施設であり、学校の敷地内につくられることが望ましいと考えています。もし統合することになれば、市の担当部署と連携して、利用者に不便がかからないよう協議したいと考えています。
19	体育館に空調がつくことについて、統合の話が進むことで計画に変更はあるのか。	体育館の空調については、学校の適正な規模等の取組に関係なく、現在の子どもたちの環境を改善するために必要であるため設置する予定です。

⑶　中央台小学校

No.	質　問	回　答
1	統合する時期は決まっているのか。	現時点では、統合の時期は具体的に決まっておらず、まずは皆様の意見をお聞きしたいという段階です。今後、意見交換会を開催しながら、皆様と議論を積み重ね、考え方がまとまり次第、具体的に進めていきたいと考えています。 仮に統合となった場合も、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい校舎を建てる場合によって期間が異なります。大規模な工事や改修をするとなると、設計の期間と工事の期間を合わせ、５年程度の期間が必要になると考えています。
2	統合した場合、登下校に関して具体的にどのようになるのか。	今の時点では具体的なことは決まっていません。仮に統合する場合、どの学校と統合するかによって通学区域が変わります。そのため、具体的な内容については、それからの議論になると考えています。
3	現在、適正な規模を検討している小中学校は 17 校あると思うが、仮に統合となった場合、何校になると想定しているのか。	具体的に何校にしようということは決めていません。例えば高森台中学校では、令和 22 年度にはクラス替えができない学年があると推定されます。同じように中学校だと、藤山台中学校と岩成台中学校は全学年でクラス替えができないと推定されます。そのような場合は、隣接する中学校区とあわせ、適正な規模等を検討する必要があると考えています。
4	学校施設の耐用年数は概ね 90 年であると聞いた。それを踏まえると建物の改修などの兼ね合いはどのように考えているのか。	ご質問のとおり、学校施設は概ね 90 年間利用することを目途とし、市は学校施設を継続して使うために 50 年程度で大規模なリニューアル工事を予定しています。適正な規模等の検討の対象となっている小中学校については、これから皆様と議論しながら方針を決定していくため、方針を見据えながら改修のタイミングなども検討していく必要があると考えています。
5	仮に統廃合するとなったとき、５つの地区を同時進行で進めていくのか、順番に取り組んでいくのかを知りたい。	現在は 17 校とも同じ進捗状況ではありますが、今後、皆様と議論を重ねていく中で、進み方の違いが出てくると思います。市としては、可能な限り早く着手したいと考えておりますので、皆様と意見がまとまった地区から進めていきたいと考えています。
6	（意見） 令和 22 年の推計値を見るととても少ないと感じる。ただ、今は先生が子どもをきめ細かに指導していただき、大変助かっている。できれば１クラス 20 人程度で維持できるのであれば、学校を残してほしいと思う。	
7	現在は、住所によって学校区域を決定していると思うが、統合となった場合は、学校までの通学距離によって区域を決定すればよいのではないか。	学校の適正な規模や配置を考える際は、地域間のつながりも重視しています。中央台地区として一つにまとまって行ってきた活動や行事などがあると思うので、ご質問の点については、慎重に検討する必要があると考えています。

No.	質　問	回　答
8	過去に玉川小学校に統合の話があり、統合の検討に反対したら検討がなくなったなど、様々な噂が飛び交っている。何が事実なのか。	本市で過去に統合したのは藤山台小学校だけです。ご質問の玉川小学校が統合に反対して中止となった事実はありません。 市としては今の時点ではどこの学校を統合するなどの案は持っておらず、皆様と議論を重ね、検討を進めていきたいと考えております。
9	学校の適正な規模等の考えがまとまったらスピード感をもって進めるとのことだが、何をもって考えがまとまったと判断するのか。	学校を統合することは非常にハードルの高い課題であると思います。過去に藤山台小学校を統合した際も、様々な意見が出て、全ての方が賛成することはありませんでした。今回の適正な規模等に関する検討についても、全ての方が同意することは難しいと考えています。なるべく皆様の意見を考慮して、市が最善だと思う判断をすることが必要であると考えています。その際の基準は、具体的に決まってはいません。
10	藤山台小学校が統合した際、どのようなスケジュールであったのか。	藤山台小学校は、平成 28 年度に３校が統合して開校しています。議論が始まったのは開校６年前の平成 22 年４月で、藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置されて検討が始まっています。その後、平成 24 年２月に藤山台中学校区のより良い教育環境の実現に向けた第１次小学校統合計画が策定され、平成 25 年２月に第２次小学校統合計画が策定されました。これにより平成 25 年４月に藤山台小学校と藤山台東小学校が統合し、平成 28 年４月に西藤山台小学校が統合し、現在の藤山台小学校が開校しました。
11	中央台小学校は母校なので残して欲しいと思う。資料のアンケート結果を見ると、統廃合ありきのような質問の仕方であると感じた。 また廃校となった学校の周辺地域には影響があると思うので、統合後の跡地の計画も地域の方に説明をして、計画を進めて欲しいと思う。	跡地につきまして、跡地の活用方法が決まらないと学校の適正な規模等の検討が進まないという事態は避けたいと思っております。子どもたちにとってより良い教育環境の向上を第一に考える必要あるため、跡地の問題は別で検討を進めていきたいと考えています。 ニュータウンの活性化については、市ではニュータウン創生課が中心となり取り組んでいます。ニュータウンの活性化施策と学校の適正な規模等に関する検討は、同時並行して進めていきたいと考えております。
12	今、子どもが 20 人程度のクラスで過ごしており、35 人のクラスよりも良いと感じている。仮に統合となった場合、１クラス 35 人になるのかについて知りたい。	仮に高森台中学校区の３つの小学校を統合すると、令和 22 年度には１学年に１クラスと推定される学年があります。例えば１学年が 35 人の場合は 35 人の１クラスになりますが、１学年が 36 人の場合ですと 18 人ずつの２クラスになります。 市としては学校生活において子どもたちが人間関係につまづいた時などに、人間関係を変えられる環境があることが望ましいと考えているため、１学年に複数クラスを確保したいと考えております。

No.	質　問	回　答
13	仮に統合した後、10 年くらいで再び過小規模となった場合はさらに統廃合するのか。それとも統廃合をした学校は何年か統廃合の間隔を開けるのか。	藤山台小学校は平成 28 年に統合していますが、今回の検討の対象となっています。当時の児童数の推計では、一定の児童数が確保できるという見込みではありましたが、想定以上に人口減少が進んでおり、今後は１学年１クラスになる学年があると推計されます。藤山台中学校区に関しては、小学校と中学校が１校ずつしかないので、隣接する学校区とあわせた検討をする必要があります。 今回は 15 年後の令和 22 年度の数字を示していますが、先を見据え、中学校区内だけでなく、より広域な検討を進める必要があると考えています。
14	今後の意見交換会のスケジュールは決まっているのか。	２回目の意見交換会については、年内に高森台中学校区全体で実施する予定です。その後、意見交換会の状況に応じて、再度意見交換会を開くのか、地域や保護者の代表の方を集めた協議会のようなものを開催するのかを判断します。
15	意見交換会の案内には、子ども同伴ができるかどうかの記載がなかった。次回、意見交換会を実施するときは、多くの保護者が参加できるように、その点を明記してほしい。また、子どもを同伴した場合、子どもをどうすればよいのか知りたい。	各小中学校の意見交換会でも、開催する時間帯について意見をいただいています。２回目の意見交換会については、日時を土曜日か日曜日の日中に設定いたします。お子様を連れてきていただいて構いませんが、託児ができないので、その点についてはご理解をお願いします。
16	高森台地区について、仮に３校で統合した際、中央台に集約された場合は問題ないが、高森台小学校に集約された場合、中央台小学校の児童は通学時間が延びる。そうなると石尾台中学校区の学校の方が近くなる場合もある。またアンケートの中でも反対意見の理由に登下校に関することが多くあったので、検討を進める際は通学距離を重視してほしい。	仮に統合して、統合先の学校よりも隣の地区の学校の方が近い場合、個人の希望だけで隣の学校へ通学することは難しいです。その地域の総意として要望があれば、検討する必要があると思います。
17	仮に統合して、スクールバスを導入することは良いと思うが、バスの時間は決まっているので、家庭によっては時間が合わず、利用できない場合もあると思う。そのため朝、子どもが待っていられる居場所の創出も検討してほしい。	例えば、押沢台小学校では地域の方のご協力によって、子どもの家の場所を使った朝の児童の預かりを行っています。子育て担当の部署と、このような意見をいただいているということを共有し連携を取りながら、どれくらいのニーズがあるかなども含めて検討していきたいと考えています。
18	児童の人数は減っているが、学童に通う子どもは増えていると思う。学童についてはどのように考えているのか。	子どもの家につきましては、基本的には学校の敷地内にあるのが望ましいと考えています。仮に統合となった場合は、新しい学校の中に多くの受け入れ人数を持つ学童が整備されることが望ましいと考えていますので、子どもの家を所管している部署と検討していきます。

No.	質　問	回　答
19	小中一貫校も検討しているのか。	魅力ある学校をつくるための一つの手段と考えています。検討を進めるにあたって、メリットやデメリットを皆様にお示ししながら、一緒に考えていきたいと思います。
20	意見がまとまったと判断するとき、市はどのように保護者や地域の方の総意が賛成であると判断するのか。また、藤山台小学校が統合した際は、どのように判断していたのか。	藤山台小学校の統合の際は、統廃合を前提で話が進んでいました。そのため協議会等で議論を継続することで統合を進めていきました。 今回の学校の適正な規模の検討については、最終的には市が判断しますが、皆様の意見を聞いていく中で、反対の意見が多い場合は考え方を改める必要も考えられます。賛成か反対を問うアンケートの実施については、現在のところ考えていません。
21	いつまでに統合するという目標は決まっているのか。	いつまでにという期限は決めていません。早く合意形成ができた地区から、具体的に検討を進めていきたいと考えています。合意形成ができない地区は、場合によっては、再開時期を設けたうえで一旦議論を中止する場合もあります。
22	市は統合したいということか。	統合ありきではありませんが、今の学校規模は子どもにとっても良くない状況と考えています。そのため皆様と一緒に議論を積み重ね、学校の適正な規模や配置について検討していきたいと考えています。
23	子どもの人数以外で、学校がどうあるべきかといった考えはあるのか。	社会が複雑化していく中で、子どもたちが自分に自信をもって元気に育つということを根本的なこととして、学校と地域と家庭で子どもを育てていくということが本市の教育大綱の基本となっています。また、それに加えて、学校は学力を身に付ける場であると同時に、集団の中で他の人を理解し、お互いを高めあい、思いやりの心を育む場所であると考えます。そのような考えのもと、一定の学校規模が必要であるということを前提に、学校の適正な規模や配置について検討しています。

⑷　東高森台小学校

No.	質　問	回　答
1	アンケートの質問項目に小規模校だと具体的に何が困るのかが書かれていない。小規模校のメリットも記載していないが、市は統合を前提に動いているのか。	統合を前提にしていません。アンケートの項目に記載はありませんでしたが、小規模校のメリットについては、「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」に掲載しています。また、今回の意見交換会は皆様の意見を聞くことを主としています。
2	小規模校のメリットも提示しないと判断できないのではないか。アンケートを行うなら、メリットとデメリットの両方を比較できることが大事だと思う。	小規模校のメリットについては、昨年度の２月に策定した「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」に記載し、市ホームページで公開しています。しかしながら、そのリンク先にたどり着くことが難しかったと感じています。 小規模校のメリットはありますが、市としては、子どもたちの社会性や規範意識を高めるには一定の学校規模が必要と考えており、クラス替えを行える規模が必要と考えています。
3	中学校区内の小学校を統合するという文書が回覧板で回っているという話があった。どういう文書が回っているのか。	市からは、地域アンケートの協力を依頼したチラシと、今回の意見交換会の案内の文書を発出しており、統合が決定していると記載した文書は発出していません。
4	高蔵寺リ・ニュータウン計画には、子育て世代の居住の誘導についての記載があり事業が進められているが、令和 22 年度の推計値に子どもの数が増えることは反映されていないのはなぜか。	令和 13 年度までは、現在の子どもの数に社会増減を加味して推計しており、令和 22 年度については、各地区の今後の人口減少率から推計しています。 高森台地区では高森台テラスの整備により、子育て世代が増え、子どもの数も一時的に増える可能性はありますが、それは令和 22 年度の推計には含んでおりません。しかし、全国的な人口減少や出生率の低下の状況のなか、現実的には人口増加は見込み難いと考えています。
5	高蔵寺リ・ニュータウン計画等では子育てがしやすいことを押し出して人口増加を図っている一方で、教育委員会の推計に対する考えは悲観的な考えに感じる。市の他部門との連携はとれているのか。	リ・ニュータウン計画はニュータウン創生課が所管しており、教育委員会とは適宜情報交換を行っています。
6	仮に統合して３つの学校が１つになった場合、学童の定員が気になる。学童は学校の中に必要だと考える。 また、春日井市は瀬戸市のように小中一貫校を考えているのか。	子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。 小中一貫校の導入については、現時点では決まっていませんが、皆さまからの意見を聞きながら、必要に応じて検討していきたいと考えています。
7	令和 22 年はまだ先のことのように感じる。今どういうビジョンがあってこのような検討になるのかわからない。何を見てこの施策を行うのか。何が一番大事だと考えているのか。	一番に考えることは、子どもの教育環境の向上です。タブレットの使用など学習の仕方や、学校の外での子どもの過ごし方も変わってきた中で、学校での子どもたちの社会性の育成は重要さを増していると考えています。子どもたちが社会性を身につけるには、ある程度の学校規模が必要であると考え、学校の適正な規模の取組を進めていきます。

No.	質　問	回　答
8	今後のスケジュールを知りたい。検討する期間はどれだけあるのか。	まずは、検討の対象となっている各中学校区内の小中学校で１回目の意見交換会を実施しています。そこでいただいた意見をまとめて、各中学校区の単位で２回目の意見交換会を実施したいと考えています。 その後、保護者、地域の方、学校関係者の代表の方で協議会のようなものをつくり、具体的な検討を進めていきたいと考えています。 地域の皆さんとの合意形成のタイミングにもよりますが、仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。新しい学校をつくる場合やリニューアルする場合では、設計と工事の期間で５年程度必要となります。
9	２回目の意見交換会の開催はいつか。	年内の実施を考えています。
10	今回のスケジュールの参考にするため、藤山台小学校が統合した際のスケジュールを聞きたい。	平成 22 年４月に藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成 24 年２月には「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第１次小学校統合計画」が策定されました。平成 25 年に藤山台小学校と藤山台東小学校の２校が統合したので、３年程前から協議会で検討を行っていました。 今回は藤山台小統合の時と進め方が違いますが、意見交換会の後に協議会を立ち上げたいと考えています。
11	資料に隣接する他中学校区の中学校との距離の記載があるが、他の地区の中学校の令和 22 年度の推計はどうなるのか。	各中学校の令和 22 年度の生徒数及び学級数の見込みは、藤山台中学校は生徒数 73 人、学級数は各学年で１学級、石尾台中学校は生徒数 129 人、学級数は各学年で２学級、岩成台中学校は生徒数 91 人、学級数は各学年１学級となります。
12	中学校区を越えて統合を実施することもあるのか。他の中学校区の学校に行くことが近い場合もあるので、通学距離も考慮して検討してほしい。	推計のとおり子どもの数が減っていくと、他の中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要があると考えています。皆さんの意見をお聞きする中で、必要に応じて、通学区域の変更についても検討していきたいと考えています。
13	過小規模校のデメリットについて、具体的な例があれば教えてほしい。 また、運動会を他の学校と合同で行うなど、統合以外の方法で子どもの成長を促すような対応を考えてもらうことはできないのか。	過小規模校のデメリットとして、人間関係でトラブルがあった場合に、距離をとるように配慮したいと思っても、クラス替えができないことで対応が難しいことがあります。 また、小規模校同士で、合同で行事を行う学校もあります。修学旅行の日程をあわせた事例がありますが、校外学習などは学校同士の日程の都合が合わず、実施できなかったとも聞いています。
14	学年に１学級でも困ったことはなく、先生が手厚く教育してくれて、子どもの成長に問題は感じていない。親が一番心配に感じているのは、通学の安全性である。安全性に問題がある通学路や長い距離を歩かせるなどの課題は、バスを走らせることで解決するのではないか。	登下校の課題については、アンケートの結果でも表れており、保護者の方が一番心配している項目となっています。バスの運用に関しては、スクールバスの導入や路線バスの利用など様々な方法があり、検討していきたいと考えています。

No.	質　問	回　答
15	（意見） 学校規模の適正化は、市側は適正と思っているが、住民には適正と思っていない人もいるので、アンケートの質問の表現には気を付けたほうがよい。	
16	今回対象としている５中学校区を全部統合した場合、令和７年度の児童生徒数、学級数はどうなるのか。	ニュータウン地区と坂下地区とは地理的な隔たりもあることから、坂下地区を除くニュータウン地区内の小学生を合計すると、令和７年度で 1,853 人、57 クラスとなります。過大規模の学校となるため、現状ではニュータウンで１校の案は現実的ではないかもしれませんが、子どもの減少を考えると将来的には議論が必要になるかもしれません。
17	クラスの数が多くなり過ぎた場合のデメリットを聞きたい。	一般的に規模の大きい学校の課題として、学校行事において、係や役割分担のない子どもが現れる可能性があるなど一人ひとりが活躍する場や機会が少なくなる場合があること、同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合があることなどがあげられます。
18	現在、東高森台小学校が過小規模であるということが影響して、保護者の意見で反対が多く、賛成が少ないのではないのかという分析だが、他の地区ではどうか。	他の学校の結果をみると、反対が賛成の割合を上回ることはありませんが、過小規模校の方が、保護者の反対が多くなる傾向にあります。今の学校に不満がなければ、無理に適正規模等の検討を進めなくてもよいと考えている方が多いのではないかと分析しています。
19	今回の意見交換会について、今検討のどの段階なのか、全体的な位置づけがわからない。統合や通学手段が決まった段階で意見交換会を開いてもらえるのか。	意見交換会については、検討の段階という位置付けです。今後も、皆さまからの意見をお聞きすることは継続していきます。
20	資料をみると「検討を進める」という表現があり、焦りを感じた。意見交換会に仕事などで参加できない方もいると思うので、情報は具体的に示してほしい。	議事録を作成して、市ホームページにて内容を公開します。速やかな情報提供に努めていきたいと考えています。
21	市は学年に複数クラスあることが望ましいとのことだが、具体的に何パーセントの方が賛成したら、統合を進めていくなどといった基準はあるのか。	具体的な基準はなく、皆様の意見を聞きながら検討を進めていきたいと考えています。
22	アンケートの結果だけで、住民の意見が全て反映されているとはいえないと思う。アンケートに掲載されている情報も不十分である。アンケートの結果をどれだけ重視するのか。	数値では賛成の方の割合が高くなっており、この結果は参考にさせていただきます。全ての方が同意するということは現実的ではないため、市がどこかのタイミングで判断することが必要と考えています。

No.	質　問	回　答
23	検討していく上では、いろいろな意見があがると思うので、徹底的に検討して欲しい。反対の方の意見もたくさん聞いて、それをクリアして次のステップに進めると思う。	今後の進め方の参考にさせていただきます。
24	小規模校のメリットやデメリットについて、より分かりやすく理解できるように、学校生活や授業などの具体的な例を用いた表現はできないのか。	今後の議論の中で、具体的な情報を示していきます。今回の意見交換会は皆さまの意見を聞くというのが主旨なので、今後検討していきたいと考えています。

2　第２回意見交換会

高森台中学校区全体

No.	質　問	回　答
1	仮に統合した場合、自転車通学は考えているのか。また、部活動の際に、自転車を使って移動はできるのか。	統合後の学校の位置によりますが、バス通学だけでなく、自転車通学に関しても検討していきたいと考えています。 部活動について、市では地域クラブへの展開を図っていますが、平日の部活動に関しては、学校の教育活動として行われていくと考えています。そのため、移動手段については、土日は地域クラブに管理していただくことになりますが、平日は、どこかに移動して活動するということは考えにくいと思います。
2	ニュータウン内の子どもの数を増やす施策は行っているのか。	子どもの数を増やす施策について、市全体で、子育てのしやすい環境づくりを進めており、ニュータウンの活性化の観点では、ニュータウン創生課の「リ・ニュータウン計画」に基づいて取り組んでいます。また、瀬戸市のように魅力的な学校づくりを進めることにより、子どもの数が増えている例のように、春日井市も検討を進めていく必要があると考えています。
3	１クラスあたりの人数について、１学年に 35 人と 36 人では、先生の負担が大きく変わる。その点の対策は考えているのか。	１クラスあたりの人数について、市としては、１学年２クラス以上必要であり、クラスの人数も変わっていくため、ある程度の学校規模を確保する必要があると考えています。春日井市では、学校規模が大きく、指導が大変になる場合や、きめ細かな指導ができない場合は、加配の教員をつけています。
4	過去に藤山台小学校が統合した際に、一部の地域が藤山台小学校区から別の小学校区に変わったのはなぜか。	小学校区の変更については、その地域の総意として、藤山台小学校ではなく、別の小学校に通うと話がありました。理由としては、坂道があるため、小学校低学年の子どもには通うことは難しいという意見がありました。なお、通学区域の変更については、通学区域審議会によって決定されています。
5	新しい学校を建てる場合、どのように土地を使っていくのか。	新しい学校の土地については、現段階では統合するかどうかも決まっていない状態であるので、どこの学校を使用するかなどは決まっていません。ただ、新しい土地を準備することは難しいと考えており、既存の学校施設の土地を使うことになると考えています。
6	小学校の統合とともに、中学校の統合も検討しているのか。また、どのような順番で統合していくのか。	小学校につきまして、現在、中央台小学校と東高森台小学校の各学年のクラス数は１クラスであり、クラス替えができない状況です。また令和 22 年度の推計では、高森台小学校でも全学年１クラスということで、適正規模等の取組が必要になると考えられます。高森台中学校についても、令和 22 年度の推計を見ると、クラス替えができない学年があるため、統合の順番について決まっていませんが、取組が必要となると認識しています。
7	学校の統合において、ニュータウンの活性化のためにも、ニュータウン創生課と連携が必要となると思う。ニュータウン活性化のための取組をどのように関連させて、学校統合を進めていくのか。	現在、ニュータウン創生課とは情報交換を行うなど連携しており、ニュータウン創生課の担当者も第１回意見交換会に参加していました。それぞれ施策の内容は異なりますが、ニュータウンのまちづくりや子どもの教育環境の向上のため、今後も情報共有していきたいと考えています。

No.	質　問	回　答
8	資料のアンケート結果について、複数学級が望ましいと考えている子どもたちの割合が低いと思う。大人たちだけの意見交換会を開催するのも良いが、子どもたちの状況を把握するためにも、子どもたちとの意見交換会や説明会を開いてほしい。	アンケートは、小学３年生以上の児童を対象としました。推測にはなりますが、１学年１学級で１年生から生活している子は、その環境しか経験していないので、今の学級で特に問題がなければ現状のままでよいと考える子もいると思います。対して、保護者の方が複数学級が望ましいという割合が高いのは、自身が子どものころ、複数クラスを経験している方もみえるため、比較して判断できるのではないかと推測します。 子どもたちとの意見交換会につきましては、今後、町内会や学校などの単位で、それぞれ意見を聞いてほしいというご依頼があれば伺いたいと考えていますので、ご意見を参考にさせていただきます。
9	ニュータウンの人口を増やすために、ニュータウン創生課がどのようなビジョンを持っているのかなどを共有する必要がある。そのため、各小中学校の令和 22 年度の推計値だけで、統合を進めることはおかしいと思う。 小中一貫校に関して、発想は面白いと思うが、子どもの推計だけで統合の判断するのではなく、将来的なビジョンも合わせて考える必要がある。	本日は、子どもたちの教育環境の向上についてご説明させていただきましたが、議論が進むにつれて、まちづくりの視点も重要になると考えています。そのため、例えばニュータウン創生課の担当者も交え、まちづくりの観点も含めて議論することも考えられると思います。 子どもの数が減ったから統合と決定するのではなく、全体のビジョンを考えなければいけないということにつきまして、ご意見のとおりと思います。中長期的に先を見据えて、ニュータウン地区全体の状況を考えたうえで、統合の検討を進めていきたいと考えています。
10	この地区は坂道が多いため、自転車通学は危ないと思う。地形も考慮して、検討を進めてほしい。	
11	今後、１クラスあたりの人数の基準が少なくなる可能性がある中で、２学級で３人ほど教師を配置してほしい。	
12	石尾台中学校区の意見交換会の日に都合が合わないため、本日参加した。 １クラスの人数が少なく、教員がきめ細かに指導してくれる環境に不満がないという声が、どの意見交換会でも上がっていた。	小規模校の環境に不満がないという意見につきまして、メリット・デメリットがそれぞれあるので、一概にどちらかが良いということは言えません。小規模校のメリットとして、子ども一人ひとりにきめ細かな指導ができるなどが挙げられますが、デメリットとして、教員と子どもの距離が近すぎることや子どもに対する価値観が固定化されてしまうなどがあるのも事実です。また、学校生活に何も問題がない子どもにとっては、環境が変わらないことが楽であると考えることもあると思いますが、今後成長してく中で、新しい環境に身を置く必要がある際に、コミュニケーションの取り方がわからないということもあり得ると思います。そのようなことから、市では、１学年に複数クラスあることが子どもの成長のためにも必要であると考えています。
13	小学生にとって、歩いて学校に通うことは必要であると思う。そのため、歩いて通うことができる範囲に学校がないといけない。	歩いて学校に通うことが大事という意見につきまして、仮に統合して、バスを導入するとなっても、子どもの歩く距離は確保できると考えています。歩くことは、子どもの成長にとって大切であるということは認識していますので、様々な視点から子どもたちの通学手段について考えていきます。

No.	質　問	回　答
14	国が統廃合を進めているのは、教育にかかる予算を減らしたいからであると思う。それによって、子どもたちの通学が困難になり、学校がなくなる影響でその地域に若い世代が移り住むことが少なくなると思う	学校の統合による地域への影響について、地域が衰退してしまうのではないかというご意見をいただきます。しかし、瀬戸市の事例のように、魅力的な学校づくりが地域の活性化に繋がった例がありますので、小中一貫校や特色ある学校施設を整備するなど、地域の活性化についても考えながら、新しい学校づくりを進めていかなければならないと考えています。
15	学校統合について知らない人が多いため、保護者や住民との話し合いの機会を増やして、慎重に検討を進めてほしい。	慎重に検討を進めてほしいという意見につきまして、今後は、意見交換会だけでなく、学校、地域、子どもなど、それぞれの単位で意見交換を行うことも検討していきたいと思います。
16	配布資料の児童生徒数推計には、令和22年度で東高森台小学校の１年生は９人とあるが、自分の周りでは、子どもが増えているように感じる。そのような状況を考えると、本当に資料の児童生徒数推計のように推移するのか。	児童生徒数推計については、小学生は令和 13 年まで、中学生は令和19年までの数値は現在の実際の人口に基づき推計しており、令和22年度の推計は、市の人口ビジョンを基に推定した値となっています。高森台地区では、空き家の利活用や高森台テラスなどの団地の再開発などで、令和22年度の推計よりも子どもの数が増える可能性もあると思います。 市としては、小中学校の適正規模及び適正配置の検討を進めるに当たって、長期的な将来を見据えて取り組む必要があるため、令和22年度の数値も参考にしています。
17	統合の検討を進めるにあたって、公募して委員会のような機関を設立することが必要であると思う。過去の藤山台小学校の統合では、校長先生やPTA役員などを集めて懇談会を開催したと思うが、正直、教育委員会の息がかかっていると思う。今度、懇談会などを設立するにあたり、その点が心配である。また、パブリックコメントで市民からの意見を聞いてほしい。 中学生に統合することについて意見を聞いたら、先生の目が届かなくなるから嬉しいと答えた。このような中学生と教員の関係は良くない。この状態のまま統合しても、子どもたちにとって意味がない。そのため、早く統合のビジョンを示してほしい。	１つ目の質問について、今後の流れとしましては、保護者、地域の方、学校関係者などの代表者で懇談会のようなものを組織しようと考えています。また、統合に向けての基本方針を作成する段階で、パブリックコメントを実施する予定です。 ２つ目の質問について、今回の意見交換会は、皆様から様々な意見をお聞きするということを趣旨として開催しています。いただいた意見を参考にし、市としてのビジョンを示しながら今後も検討を進めていきたいと考えています。
18	学校は地域の拠点としても存在している。そのため、学校跡地について、統合の検討と切り離して考えるのではなく一緒に考える必要がある。また、教育委員会だけでなく、他部署とも連携を取り考えていくべきである。	他の部署との連携は現在も行っておりますが、今後、具体的な議論が進むにつれ、地域への影響なども含めて、引き続き連携して対応していきたいと考えています。

No.	質　問	回　答
19	配布資料の３ページに「教職員数が少なくなることの課題」と記載してあるが、１つの学校の中の教職員が減るという認識でよいか。例えば、３つの小学校の１年生が、それぞれ 20 人ずつ在籍している場合は、教職員が全体で３人配置される。しかし、３校が統合されると１学年 60 人となり、配置される教職員が２人となる。そのため、１つの学校では教職員数が増えているが、市全体では減ることになるということか。	教職員は、県の基準をもとに、学級数に応じて配置されます。学校単位で見ると、学校規模が大きい学校は、加配の教職員が配置されることもあります。
20	できれば小規模校のままであってほしい。小規模校も大規模校も行事の数は同じようにあると思うので、それを少ない人数で準備することは大変であると思う。しかしながら、小規模校では教職員の人数が少ないからこそ、校長先生が一人ひとりの子どもを把握しているなど、きめ細かく子どもを見てくれる。	保護者の方の子育てや教育観、家庭環境は様々であり、子どもの個性や特性もそれぞれ違います。小規模校か大規模校のどちらが良いのかは、子どもによって答えが分かれ、正解はありません。ただ、市としては、子どもの人間関係を流動的にするなど、クラス替えができる規模の学校が必要であると考えます。 教職員の働き方について、小規模校であると、教職員１人あたりの業務は増えるので負担はあります。一方で、きめ細かな指導ができるメリットもあります。ただ、子どもたちだけでなく、教職員も人間関係の中で仕事をしており、１学年１クラスの学校に配置された場合は、自身の授業について他の教職員と比較できず、教職員の成長も難しい環境にあります。また、複数の目がないということは、自身の授業が適切であるかどうか判断し難いです。そのため、教職員の観点からも、クラス替えのできる規模の学校が必要であると考えます。
21	配布資料の児童生徒数推計のとおりに、令和 22 年度のように子どもの数が減少した場合、中学校区内の学校だけで統合するのか、それとも他の中学校区とも統合するのか。具体的なことは決まっていないとは思うが、推計だけを見たときに、どのよう判断するのか教えてほしい。	児童生徒数推計による統合の判断について、配布資料の７、８ページに高森台中学校区の小学校３校が統合した場合の推計を記載しています。推計を見ると、令和 22 年度ではクラス替えができない学年があります。また、他の中学校区を含めた統合を考える場合、例えば石尾台中学校区の小学校３校と合わせて合計６校の小学校で統合したときの推計値は、令和７年度では、児童数は 1,038 人、学級数は各学年で５または６クラスであると推計しています。令和 22 年度では、１年生が 73 人、２年生が 71 人、３年生が 89 人、４年生が 81 人、５年生が 72 人、６年生が 67 人ということで、６年生以外は３クラスとなります。また、中学校について、仮に石尾台中学校と統合した場合、令和７年度では生徒数 622 人で各学年６学級ですが、令和 22 年度では、１年生が 80 人、２年生が 78 人、３年生が 80 人となります。令和 22 年度以降も子どもの数が減少する可能性があるので、将来を見据えて長期的な視点で検討していきたいと考えます。

No.	質　問	回　答
22	２クラス以上になるメリットは理解できた。しかし、全国的にも統廃合が増えていく中で、例えばこの学校をモデルにしたら、地域の人口が増えたなどのメリットについてあまり示されていないと思う。	他市の統合に関する取組について、全国的にも地域の状況に応じて統合が進められています。高蔵寺ニュータウン地区の状況に近い市の取組について、調査研究を進めており、皆様へ情報提供を行っていきたいと考えています。
23	学級数が多い小学校はとても荒れていると聞く。この問題について、市としてはどの程度把握しているのか。また今後、そのような状況になったときの対策方法はあるのか。	学校の規模が大きな学校は荒れているという意見について、児童生徒数の数が増えれば、母数も増えるため、様々なトラブルが起きることはあると思います。一方で教育的に考えると、子どもたちは様々なトラブルやいざこざを経験しながら成長していきます。そのため、大事なことは事前に予防することと、早期発見することであると考えています。ただ、学校の規模の大小に関わらず、その学校の雰囲気などは違いますので、学校の規模が大きいと荒れるということは一概には言えないと思います。
24	統合後の跡地はどうなるのか。また統合によって、母校がなくなるは悲しい。	統合後の跡地については具体的に決まっていません。まずは子どもたちの教育環境の向上を第一に考えていきますが、今後、跡地については、他部署と連携をしながら検討していきます。 母校がなくなることが悲しいというご意見について、そのとおりだと思います。ただし、子どもの教育環境を第一に考えたときに母校がなくなることは、起こり得ることであるため、今後も慎重な協議を重ねてご理解をいただければと思います。
25	市からの情報発信が少ないと思う。もっと、市民に学校統合についてアピールしてほしい。	現状、市のホームページや地域の回覧で、意見交換会の開催等について情報発信をしていますが、今後は取組の進捗状況などを「かわら版」のような形で作成し、広く皆様へ情報を提供していきたいと考えています。
26	今はクラスの人数が少なく、きめ細かな指導を受けることができているので、仮に統合しても、児童一人ひとりに対するケアをしてもらいたいと思う。	仮に統合するとなった場合でも、児童に対するケアについては丁寧に取り組む必要があるので、皆様と意見交換を重ねて、検討していきたいと考えています。
27	配布資料の構成について、とても分かりやすくまとめられていると思うが、規模が小さい学校のデメリットを手厚く記し、学校統合へ誘導しているように感じる。また、アンケート結果に関して、何人が回答しているかなど具体的な数字を明らかにするべきであると思う。	資料の中のアンケートについて、結果をすべて記載することは資料の量が膨大となってしまうため、一部抜粋という形になっています。アンケートの詳細については、ホームページで公開しています。また、小規模校のデメリットを手厚く記し、統合へ誘導しているのではないかという意見について、市としてフラットな立場で情報提供をするために、今後の資料作りの参考にさせていただきます。

No.	質　問	回　答
28	統合前の学校に短期間しか在籍できず、すぐに統合先に移り替わる子どもがいると思う。その子どもたちに対して、何かフォローなどを考えているのか。	子どもへのフォローについて、統合は子どもにとって心理的な負担がかかることが考えられるため、統合する前から情報提供をさせていただき、統合する学校同士で一緒に活動を行うなど、心理的な負担を軽減できるような取組を行っていきたいと考えています。
29	通学バスについて、瀬戸市の「にじの丘学園」のように既存のバスを使用する場合、知らない人と一緒のバスに乗せることが怖い。どのように考えているのか。	バスについて、現段階では具体的には決まっていません。今後、スクールバスや民間バスなど運営の手法やそれに伴うメリット、デメリットを考慮しながら、皆様と検討を進めていきたいと考えています。

Ⅴ　本市の考え方について

高森台中学校区の「児童生徒数推計」、「アンケート結果」、「地域の特性」及び「意見交換会」での意見に加え、「ニュータウン地区の各中学校区の状況」を踏まえ、高森台中学校区における各学校の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

1　高森台中学校区の状況

⑴　児童生徒数推計

ア　令和22年度では、高森台中学校は「小規模」であると推定され、中学校区内の全ての小学校は、全学年で学級数が1学級の「過小規模」であると推定されます。また、小学校については、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校を統合した場合でも、「小規模」であると推定されます。

イ　高森台中学校区内では適正規模の課題の解決ができません。

⑵　アンケート結果

ア　学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。

イ　保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

ウ　学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

⑶　地域の特性

ニュータウン地区内で、高森台中学校区は石尾台中学校区、藤山台中学校区、岩成台中学校区と接しており、高森台中学校は直線距離で石尾台中学校から約1.1㎞、藤山台中学校から約1.5㎞、岩成台中学校から約2.3㎞の距離に位置しています。

⑷　意見交換会

高森台中学校区では、学校統合を行う場合でもきめ細かな教育を引き続き望む意見がありました。また、統合後の通学を心配する意見のほか、保護者や住民と慎重に検討を進めてほしいなど、今後の進め方についての意見も多くありました。

2　ニュータウン地区の各中学校区の状況

⑴　各中学校区の小中学校の児童生徒数推計をみると、小学校はそれぞれの中学校区内での統合では適正な規模を確保することができません。また、中学校も単独では将来的に適正な規模を確保することができません。

⑵　隣接する中学校区において、それぞれ中学校間の直線距離で最も近い組合せは、高森台中学校と石尾台中学校（約1.1㎞）、藤山台中学校と岩成台中学校（約0.9㎞）となっています。

⑶　民生委員・児童委員は、高森台・石尾台中学校区と藤山台・岩成台中学校区の2地区に分けて活動しています。

＜市の考え方（案）＞

高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように
隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進めます。

＜検討にあたって＞　～より良い教育環境の実現に向けて～

1 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討します。
2 隣接する中学校区として、石尾台中学校区を対象に検討します。
3 保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧に検討を進めます。
4 石尾台中学校区との合同の意見交換会や懇談会の開催を検討します。
5 登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討します。

【参考】高森台中学校区、石尾台中学校区の児童生徒数推計の合計

中学校の合計では、令和 13 年度まで「適正規模」で推移すると推定されますが、令和 17 年度には、小規模ですが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定されます。
小学校の合計では、令和 22 年度においても「適正規模」を維持すると推定されます。

⑴　高森台中学校と石尾台中学校の合計

学 年	R７（適正）		R13（適正）		R19（やや小）		R22（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	209	6	158	5	80	3	80	3
2 年	204	6	161	5	108	4	78	3
3 年	209	6	200	6	85	3	80	3
合 計	622	18	519	16	273	10	238	9

⑵　高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計

学 年	R７（過大）		R13（適正）		R22（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	155	5	92	3	73	3
2 年	155	5	132	4	71	3
3 年	195	6	97	3	89	3
4 年	176	6	141	5	81	3
5 年	184	6	140	4	72	3
6 年	173	5	144	5	67	2
合 計	1038	33	746	24	453	17

※ R19 までは、R7 の０歳から５歳までの年齢別人口に基づき推計。
R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

【参考資料】

1　石尾台中学校区の児童生徒数推計

ア　石尾台中学校　※R18 から「小規模」になり、R22 では「やや小規模」であると推定

学 年	R７（やや小）		R８（やや小）		R９（やや小）		R10（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	110	4	103	3	100	3	100	3
２ 年	112	3	110	4	103	3	100	3
３ 年	115	3	112	3	110	4	103	3
合 計	337	10	325	10	313	10	303	9

イ　玉川小学校　※R９から「過小規模」になると推定

学 年	R７（小）		R８（小）		R９（過小）		R10（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	25	1	21	1	25	1	19	1
２ 年	25	1	25	1	21	1	25	1
３ 年	33	1	25	1	25	1	21	1
４ 年	27	1	33	1	25	1	25	1
５ 年	46	2	27	1	33	1	25	1
６ 年	39	2	46	2	27	1	33	1
合 計	195	8	177	7	156	6	148	6

ウ　石尾台小学校　※「過小規模」で推移

学 年	R７（過小）		R８（過小）		R９（過小）		R10（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	21	1	22	1	14	1	23	1
２ 年	24	1	21	1	22	1	14	1
３ 年	33	1	24	1	21	1	22	1
４ 年	31	1	33	1	24	1	21	1
５ 年	21	1	31	1	33	1	24	1
６ 年	29	1	21	1	31	1	33	1
合 計	159	6	152	6	145	6	137	6

エ　押沢台小学校　※R13 から「過小規模」になると推定

学 年	R７（小）		R８（小）		R９（小）		R10（小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	36	2	25	1	29	1	27	1
２ 年	21	1	37	2	26	1	30	1
３ 年	38	2	22	1	38	2	27	1
４ 年	35	1	39	2	23	1	39	2
５ 年	25	1	36	2	40	2	24	1
６ 年	32	1	26	1	37	2	41	2
合 計	187	8	185	9	193	9	188	8

※ R19 までは、R7 の０歳から５歳までの年齢別人口に基づき推計。
R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11（やや小）		R12（やや小）		R13（やや小）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
108	4	76	3	84	3
100	3	108	4	76	3
100	3	100	3	108	4
308	10	284	10	268	10

R19（小）	
生徒数	学級数
33	1
54	2
38	2
125	5

R22（やや小）	
生徒数	学級数
42	2
43	2
44	2
129	6

R11（過小）		R12（過小）		R13（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
10	1	20	1	11	1
19	1	10	1	20	1
25	1	19	1	10	1
21	1	25	1	19	1
25	1	21	1	25	1
25	1	25	1	21	1
125	6	120	6	106	6

R22（過小）	
児童数	学級数
12	1
12	1
15	1
13	1
18	1
15	1
85	6

R11（過小）		R12（過小）		R13（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	13	1	9	1
23	1	11	1	13	1
14	1	23	1	11	1
22	1	14	1	23	1
21	1	22	1	14	1
24	1	21	1	22	1
115	6	104	6	92	6

R22（過小）	
児童数	学級数
10	1
11	1
15	1
14	1
8	1
11	1
69	6

R11（小）		R12（小）		R13（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
17	1	26	1	13	1
28	1	17	1	27	1
31	1	29	1	17	1
28	1	32	1	30	1
40	2	29	1	33	1
25	1	41	2	30	1
169	7	174	7	150	6

R22（過小）	
児童数	学級数
16	1
10	1
17	1
16	1
10	1
13	1
82	6

２　石尾台中学校区のアンケート結果について

保護者アンケート･･･【保護者】　　地域アンケート･･･【地域】
児童アンケート　･･･【小学生】　　生徒アンケート･･･【中学生】

・小学校回答者数･･･　918 人（保護者 417 人、児童（３～６年生）374 人、地域の方 127 人）
・中学校回答者数･･･　494 人（保護者 200 人、生徒 294 人）

⑴ 学校の適正規模等に取り組むことについて

１学年に２学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約５割、地域の方で約６割、中学校の保護者で６割となっています。

「ぜひ進めるべき」　又は「進める方がよい」　　と回答した方 ･･･ **賛成**
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方 ･･･ **反対**

Ｑ 小中学校ともに１学年に２学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
全　体	【保護者】	54.7%	27.1%	18.2%
	【地域】	64.6%	11.0%	24.4%
玉川小	【保護者】	58.1%	26.4%	15.5%
	【地域】	56.8%	10.8%	32.4%
石尾台小	【保護者】	59.1%	26.3%	14.6%
	【地域】	66.0%	14.0%	20.0%
押沢台小	【保護者】	46.2%	28.8%	25.0%
	【地域】	70.0%	7.5%	22.5%

② 中学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
石尾台中	【保護者】	60.0%	27.5%	12.5%

３　石尾台中学校区の意見交換会の結果について

⑴　第１回意見交換会

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、魅力ある学校づくりについての質問が多くありました。また、学校跡地や情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 （開催日）	石尾台中学校（10 月 17 日）	玉川小学校（10 月９日）
参加者数	14 人	22 人
質問・意見 （ ）は件数	・統合に関することについて（4） ・児童生徒数推計について（1） ・魅力ある学校づくりについて（1） ・現状の学校の体制について（1） ・地域の活動について（1） ・意見交換会について（1） ・情報発信について（1）	・通学バスについて（3） ・統合に関することについて（3） ・アンケートについて（2） ・通学区域の変更について（1） ・避難所について（1） ・いじめ等の対応について（1） ・少人数学級について（1） ・授業内容について（1） ・スケジュールについて（1） ・過去の藤山台小の統合について（1） ・学校施設について（1） ・魅力ある学校づくりについて（1）

学校名 （開催日）	石尾台小学校（10 月６日）	押沢台小学校（10 月７日）
参加者数	22 人	30 人
質問・意見 （ ）は件数	・統合に関することについて（4） ・通学について（3） ・過去の藤山台小の統合について（2） ・今後の具体的な検討の進め方について（2） ・アンケートについて（1） ・単学級のデメリットについて（1） ・１学級の人数について（1） ・スケジュールについて（1） ・情報発信について（1） ・意見交換会について（1）	・魅力ある学校づくりについて（5） ・統合に関することについて（4） ・スケジュールについて（3） ・今後の具体的な検討の進め方について（3） ・児童生徒数推計について（2） ・過去の藤山台小の統合について（2） ・学校跡地について（2） ・通学バスについて（2） ・学校選択制について（1） ・１学級の人数について（1） ・市の考え方について（1） ・その他の市の施策について（1） ・学童について（1）

⑵　第２回意見交換会

第１回意見交換会の意見などを踏まえ、石尾台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、石尾台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、取組の目的についてや統合に関する市の考え方、魅力ある学校づくりなどの質問がありました。また、ニュータウン地区の現状や地域の実情の把握についてなど地域の視点にたった質問や、アンケートに関する質問も多くありました。

開催日	石尾台中学校区（12 月 20 日）
参加者数	41 人
質問・意見 （ ）は件数	・アンケートについて ⑶ ・ニュータウン地区の現状について ⑵ ・通学区域の変更について ⑵ ・取組の目的について ⑵ ・統合に関する市の考え方について ⑵ ・市の財政への影響について ⑴ ・地域の実情をしっかり把握することについて ⑴ ・魅力ある学校づくりについて ⑴ ・児童生徒数推計について ⑴ ・検討の順序について ⑴ ・意見交換会について ⑴ ・他自治体の事例について ⑴ ・スケジュールについて ⑴

⑶　第３回意見交換会

第２回意見交換会において、「保護者の声をもっと聴いてほしい。」という意見をいただいたことから、保護者の皆様を対象に第３回意見交換会を開催しました。

参加者からは、取組の進捗状況や市から具体的な案を提示することなど、今後の具体的な検討の進め方についての質問が多くありました。また、アンケートや意見交換会についてでは、保護者や子どもたちの意見を多く聞いてほしいという意見がありました。

開催日	石尾台中学校区（２月 11 日）
参加者数	12 人
質問・意見 （ ）は件数	・今後の具体的な検討の進め方について ⑷ ・アンケートについて ⑶ ・意見交換会について ⑶ ・統合に関する市の考えについて ⑴ ・魅力ある学校づくりについて ⑴ ・小中一貫校について ⑴ ・学校の教室数について ⑴ ・他自治体の事例について ⑴ ・石尾台中学校区の進捗状況について ⑴

※　各意見交換会の会議録は、資料表紙のＱＲコードからご確認いただけます。